

答 辞

この3年間は、僕たち162名それぞれの、「中学校生活」という名の道です。今まで歩んできたこの道は、僕たち卒業生一人ひとりにとっての、色鮮やかな花道にきっと続いていくのでしょう。でも、平坦だったように思えるその道も、時には登り坂で、時には茨の道に思えることもありました。

2019年の4月、少し大きめの制服では覆いきれないほどの期待と不安を胸に、僕たちはこの磐田市立南部中学校の門をくぐりました。今では当たり前のように、他愛のない会話を交わす友人とも、はじめは気恥ずかしくて上手く話せなかったことを、昨日のこのように思い出します。中学校での初めての授業、行事、部活動。次から次へと新しいことをこなすうちに、気付けば見知らぬ同級生は、自分を支えてくれる「仲間」として、いつも隣にいてくれました。

そんな「仲間」との二度目の春。2年生になった僕たちが、新たなクラスメイトと始めようとした「日常」は、突然「非日常」に変わりました。新たな日々を始める、そんな僕たちの淡い希望も、突如やってきた新型コロナウイルスによって消されました。およそ2か月にも及ぶ臨時休校は、隣にいたことが当たり前だった「仲間」と会えない日々を意味しました。そしてそれは、「仲間」といることの大切さと、「当たり前」が崩れる現実を痛感させました。だから、休校明けからは、それまでの空白の日々を取り返すかのように、皆で毎日を怒濤の勢いで過ごしましたね。後期からは僕たちが生徒会を引き継ぎ、学校を引っ張る番になって、より良い南部中を築き上げようと試行錯誤を重ねたときも、隣りに「仲間」がいて、とても心強く感じました。

最上級生となった三度目の春、僕たちは修学旅行に行くことができました。コロナ対策のため延期、中止、規模縮小が行われた中学校が多かった中、僕たちが予定通り修学旅行を実施できたことを、今でも本当に嬉しく思っています。なぜなら、北陸で多くを学んだ3日間は、僕たちの「仲間」としての絆をさらに強くしたからです。だからこそ、磐田に

帰ってきた僕たちは、部活動に全力で打ち込めたのだと思います。1・2年生の頃とは比べものにならない熱量で取り組んだ練習と本番を、どんなに苦しくても頑張れたのは、「仲間」との絆があったから。あの暑い夏、一人ひとりの胸には「仲間」との絆が息づいていました。

部活動引退後、バットやラケット、竹刀を鉛筆に持ち替え、あの夏と同じ熱量を、受験勉強に注ぎました。どんなにモチベーションが低くても、どんなに結果に恵まれなくても、隣で同じように鉛筆を握りしめていた「仲間」の横顔を思い出せば、あと1問、あと1分、あと一文字と頑張れた気がします。「仲間」がいたから、「仲間」と高め合えたから、今こうしてこの場に笑顔でいられると感じています。

さて、僕たちのこの3年間は、「仲間」だけと歩んできたものではありません。僕たちの学校生活、笑顔は、先生方にも支えられました。時には厳しいことを言われました。でも、その一言一言の裏側にある優しさや愛に、今なら素直に向き合えます。先生方に背中を押されて次の道に進めることを、感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

次に、在校生の皆さんへ。僕たちは、これからの南部中をあなた達に託せることを、とても頼もしく思っています。あなた達は、南部中という物語の、主人公兼プロデューサーです。この物語が「傑作」と呼ばれるように、「仲間」とともに、これからも戮力協心（りくりよくきょうしん）して頑張ってください。卒業生一同、応援しています。

そして、お父さん、お母さんへ。僕たちがこの星に生まれ、育ち、15年の時を経て今日の日を迎えられたのは、他でもないお父さん、お母さんのおかげです。どんなに迷惑をかけて怒らせても、どんなに困らせても、決して側を離れず支えてくれたこと、暖かな笑顔で、家で待っていてくれたこと、絶対にその感謝を忘れません。それでも、まだまだ未熟な僕たちです。また迷惑をかけるかもしれないし、困らせるかもしれません。今日までの御恩をいつ返せるかわからないけれど、その時が来るまで、もう少し甘えさせてください。これからも、よろしくね。

最後に、大切な仲間へ。この3年間、本当にいろいろなことがあっ

て、互いに困ったり、時に涙を流したりしたけれど、この「仲間」と一緒に今日まで歩み続けてきたことに、言い表せないほどの大きな「絆」を感じます。

でも、それでも、僕たちには何かが足りなかったのでしょうか。「仲間」との絆を大切にしてきたはずだった、12月のあの日。神様は僕たちから大切な一人の仲間を連れていきました。あの時、「仲間」の大切さと、「仲間」を失ってしまうことの悲しみや苦しみを、どれだけ思い知ったか。でも、どんなに遠くに離れたとしても、どんなに時が経ったとしても、舞花の笑顔を、僕たち161名は絶対に忘れません。

僕たち第41期の生徒会のスローガンを覚えていますか。「Our Story - 生徒みんなが主人公 -」。このスローガンの通り、僕たちは、一人ひとりの人生という名の物語の、主人公です。中学校卒業は、物語のエンディングではなく、新しい章が始まる予告です。数え切れない悔しさや悲しみは、これからへの伏線です。これからの人生が、みんなにとって最高のものとなるように、お互いそれぞれの場所で頑張っていきましょう。

もしかしたら今日を最後に、これからの人生で二度と逢わない仲間がいるかもしれません。でも、この仲間と過ごした思い出にまで、別れを告げる必要は無いはずです。だから、僕は、さよならは言いません。最高の思い出たちが、この素晴らしい南部中学校で過ごした日々の記憶が、いつまでも一人ひとりの心に残り続けることを願って。

162名の最高の「仲間」に向けて、今までも、これからも、ありがとう。

そして、またいつか。

令和4年3月17日
卒業生代表 山田航太郎